

キャラクター名
天宮 景

プレイヤー名

シンドローム	バロール ブラックドッグ		ワークス	何でも屋	カヴァー	高校生
	オプショナル ブラム=ストーカー		年齢	17	性別	男
覚醒	感染	衝動	殺戮		初期侵食率	36 %
出自	名家の生まれ		経験	記憶喪失	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	2	1	0			3	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	7
精神	3	0	0			3	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正									
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アームブレード	白兵	3r		9		
KNOCKOUT JUGGER FIGHTER	白兵	4r+2	3	14		攻撃力計算: 赫き剣SL+破壊の血SL 「強さその手に」 「NAGURU UP」
PERFECT FAIL PUZZLE	射撃	3r+1		??		攻撃力計算: 魔弾の射手 「連鎖して繋げ」 「PAZURU UP」
PERFECT DREAD KNOCKOUT		0				攻撃力計算: ??? 「赤い拳強さ、青いバズル達頭、赤と青の交差」 「MAZARU UP」

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
携帯電話	
思い出の一品	
学生服	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 業師	P	N		
天宮 色	P 慈愛	N 不安		
綾瀬 唯	P 信頼	N 恐怖		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
業師: ポルターガイスト	1	4	マイナー	至近	自身	自動	100	
効果: 所持している武器の攻撃力を固定値に加える								
CR: ブラックドック	2	2	メジャー	-	自身	自動	-	
効果: C値をSL分下げる。								
赫き剣	2	3	マイナー	-	自身	-	-	
効果: [SL2以下のHPを消費] +2の武器を作成する。								
破壊の血	4	2	マイナー	-	自身	-	-	
効果: 赫き剣の威力を+SL2、ガード値を+3。HP3消費								
アームズリンク	1	2	メジャー	武器	-	白兵、射撃	-	
効果: 判定DをSLする。								
魔弾の射手	1	4	メジャー	視界	単体	射撃	-	
効果: 所持している武器二つの攻撃力を合わせ攻撃する、1SSL回								
ハードワイヤード	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 専用アイテム入手、基本侵食+4								
時間凍結	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	80	
効果: メインプロセスを行う、行動済にならない。MP終了後HPを20消費する。1S1回								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

Dロイス: 業師分の経験点を初期に追加。

『GAME START』
2年前に事故で両親を失っており、遺された弟と二人暮らしを送ってきた。
その頃から自分の周囲で不可思議なコトが起こるようになるが、それが原因で周囲からは気味悪がられてしまい、一時期は孤立していた。
(後にエフェクトであったことが判明する)
しかし、そんな経験から高校生になった現在は、周囲に合わせ自分を偽りながらも平穏に暮らすことを選ぶ。
性格も温厚と言えるもので、争いや面倒事を嫌っており、何の変哲もない今の平凡な日常を好んでいる。
単語を3回ほど繰り返して言うクセがあり、これは自分に言い聞かせる時によく出てしまう。
趣味は料理とサブカルチャー全般。
料理に関しては、幼い頃から家事をこなしているうちに好きになっていった。余談だが色の弁当は全て景の手作りである。
サブカルチャーは多方面に通じており、読書、映画鑑賞、スポーツ観戦などジャンルを問わない。
実は頭の中でチク、タク、と時計の針のような音が鳴り響いており、時間に関しては完璧に把握できるという特技がある。
余談ではあるが、元いた実家は実家というには巨大すぎた。
というのも天宮組という暴力団組織の組長として祖父がいたために、次代の頭となることを期待されていたという経歴を持つ。
両親が死んだ際に次の頭となる跡継ぎ争いが嫌になり、母親が元々住んでいたという軒家に越してきており、それが今の家となっている。

「 思考をやめ、他者に全てを任せろのがいいのだろうか 」
「 ああ、駄目。なんだろうな。だから、考えよう 」
「 流れに身を任せろのではなく、激流にも耐えらる一本の柳のように 」
「 考える、考える、考える!! 」
「 死んでるようにだけは、生きたくなかったんだ! 」